

6月19日 成功体験

ある臨床心理士の先生と話をする機会があった。先生は「『今の高校生は成功体験が少ない』とよく言われるが、16、7年しか生きていないのだから、そんなの当たり前。これから生きていく中で獲得していくものだ」とおっしゃった。年をとるとすぐに「今どきの若いもんは」と愚痴ってしまうが、自身を振り返っても、青年期の成功体験なんてほとんどない。決められた進路を決められたように歩いて、大学進学で初めて挫折を味わって。でも今はこの挫折が、私の人生を変えたと思っている。

それまで人前で話すことさえできなかった私は、中学も高校もクラスでは空気みたいな存在だった。休み時間はいつも窓から校庭を眺めている、おそらく周りに近寄りたいたいオーラを出していたのだろう。遠足の班分けのとき、ずっと黙って座っていたら、どこの班にも入れてもらえなかった。ホームルームが終わるときにやっと担任が気づいて、当たり障りのない班に入れてくれた。そんな学校生活だから楽しいなんて思ったことはなかった。

1年間大阪の予備校に通った。当たり前だけど周りにはみんな浪人生。また暗い1年が続く……と思っていたが、現実は違った。突然、「親睦のためソフトボール大会をやります」という声が上がった。「賛成。やろう、やろう」。そのとき私の中に、「楽しんでもいいんだ。いや人生楽しまないと損だ」という思いがわき上がった。

一つの「成功体験」の背後には、きっと数え切れないほどの「失敗体験」がある。大人には、子どもたちが様々な、そして数多くの体験をするために「待つ」という努力が必要だ。子どもは自分の力で成功体験を勝ち取っていくものだ。

